

2021年10月1日



月刊

もぐら通信

2024年10月1日 第143号 初版

<http://abekobosplace.blogspot.jp>

あなたへ:
迷う事のない迷路を通して
あなただけの番地に届きます

電話

042-ABE-KOBO

FAX

042-KOBO-ABE

もぐら通信を自由にあなたの《友達》に配付して下さい



www.shutterstock.com · 75202558

目次

- 1 目次...page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（28）：孤独より 其の二：安部公房.....page 4
- 4 周辺飛行（52）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（7）：第7号・第8号：岩田英哉...page 5
- 5 『文章読本』論（7）：三島由紀夫：岩田英哉.....page 11
- 6 糞尿と性愛の文学~生殖器・排泄器同一社会論仮説~（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1.1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉...page 23
- 7 ネット・モナド論（21）：7.4.6 催眠術とプロパガンダ：岩田英哉...page 24
- 8 私の本棚（39）：未定：岩田英哉...page 25
- 9 *Mole Hole Letter*（66）：超越論II（第九回）：岩田英哉...page 20
- 10 サンチョ・パンサを求めて（18）：コンピュータ時代にはどんな人間が強いのか（3）最終回：岩田英哉...page 23
- 11 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（23）：5.16.4 八の音義は何を意味するか（承前5）/5.16.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか：岩田英哉...page 33
- 12 Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（12）：扇：岩田英哉... page 62
- 13 編集後記...page 42
- 14 編集方針.....page 43



The best tweets of the month



なし



なし

今月の椎名麟三

愛書家日誌@aishokyo・20h

1911年の今日は日本の小説家、
椎名麟三が生まれた日です。
苦勞人。安部公房によると
酒を飲むと泣くらしいです。

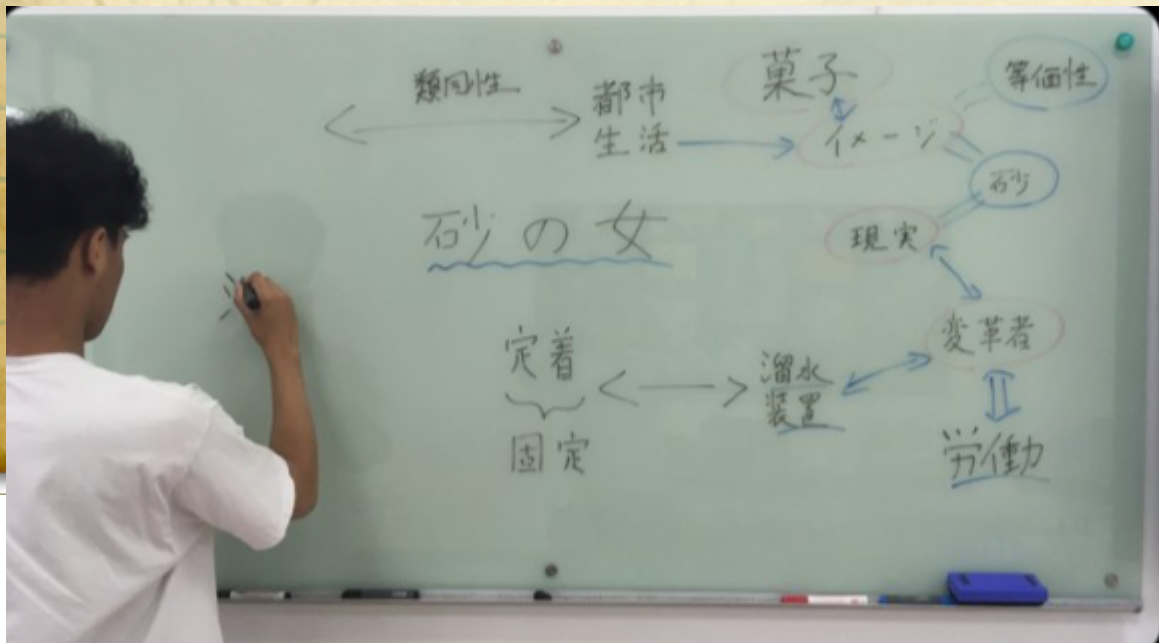


今月の砂の女

国際バカロレア IB JAPANESE オンラインスクール@IBDPMasahiro・Sep

29

今回は安部公房の『砂の女』について学びました。砂という流動的で微細な粒子がどのように大衆化した現代社会の本質を表しているのか、単調で惰性的な日常生活が無機質な砂の特質とどのように関連しているのかなど、日常に潜む危機的状況について考えることができました！



巻頭詩
(28)

孤独より
其の二

安部公房

孤独より(十一章)

其の二

たわやかな日差しが木の影を
悲しんでゐる人々の面おもてにすべらせる
幾つもの枝が夫々それぞれの慄きを
その顔から感じて影につたへる
影はやがて光の中を
そよ風にゆれる枝に連らなる
あまた悲しみの表情に結ぼれて
あまた悲しみの表情を解きながら
ひそやかな日差しが木の影を
悦んでゐる人々の面にすべらせる
幾つもの枝が夫々の微笑みを
その顔から感じて影につたへる
影はやがて光の中を
そよ風にゆれる枝に連らなる
あまた悦びの表情に結ぼれて
あまた悦びの表情を解きながら



周辺飛行

(52)

4. 『安部公房スタジオ会員通信』(7)・(8)

第7号〔未入手〕・第8号

安部公房スタジオ・会員通信

No.8

1979. 6. 10

アメリカ公演劇評集

〒150 東京都渋谷区宇田川町19-5 山手マンション地下

TEL 03-461-0864

アメリカ公演を終えて—安部公房スタジオ会員通信8

初めてのアメリカ公演は、予想をはるかに上回る成果をあげることができた。

観客はカーテン・コールで立ち上り「ブラボー！」を連呼した。公演の最中においても、突如、拍手が湧きおこった。涙をうるませている観客さえ見かけることができた。悲劇ではない我々の舞台に。

ニューヨーク前衛演劇の砦であるラ・ママでの公演では、加速度的に観客が増えた。楽日には、通路から階段、果てはミキサー室にまで観客があふれた。

各紙の劇評は、日本の芝居としてではなく、現代演劇として

アメリカ公演を終えて

安部公房

初めてのアメリカ公演は、予想をはるかに上回る成果をあげることができた。

観客はカーテン・コールで立ち上り「ブラボー！」を連呼した。公演の最中においても、突如、拍手が湧きおこった。涙をうるませている観客さえ見かけることができた。悲劇ではない我々の舞台に。

ニューヨーク前衛演劇の砦であるラ・ママでの公演では、加速度的に観客が増えた。楽日には、通路から階段、果てはミキサー室にまで観客があふれた。各紙の劇評は、日本の芝居としてではなく、現代演劇としてここ数年ぶりの成果、としてそのオリジナリティを評価した。ビーター・ブルックやグロトフスキや与えたような、決定的なショックを与えたといっているのではないだろうか。

気風の方がアメリカ各地で同じような評価を受けた、というよりは、アメリカのみではなく、ヨーロッパでも同じような評価を受けるのではないかと、という自信と期待を抱かせる。文化の独自性よりも、普遍性の方が現代において要請されているのだ、ということを経験できたということは、大きなことだった。(試)

ここ数年ぶりの成果、としてそのオリジナリティを評価した。ビーター・ブルックやグロトフスキや与えたような、決定的なショックを与えたといっているのではないだろうか。

気風の方がアメリカ各地で同じような評価を受けた、というよりは、アメリカのみではなく、ヨーロッパでも同じような評価を受けるのではないかと、という自信と期待を抱かせる。文化の独自性よりも、普遍性の方が現代において要請されているのだ、ということを経験できたということは、大きなことだった。

〔1979.6.10〕



PHOTO 山田 隆
「仔家は死んだ」より

日本の実験的な仔象

アイヴィッド・リチャーズ

ケネディ・センター演劇団地における「実験」劇場として長らく約束されていたテラス劇場が、昨夜その歴史の中ではじめて真に実験的な公演を持つことになった。

この作品では、しなやかな肉体を持つ一群の俳優と、沢山の奇抜な大道具、小道具と、無気味な照明効果とが、大部分巨大な半透明の幕の下で一つとなつて、一連の息を呑むような目ざましいイメージを作り出す。わずかばかりの神秘的な会話、電子音、ほとぼしる音、鳥の鳴き声などが、この世界の夢のような性質を強調する。だが、安部公房のイメージは、サーカス、月、サミュエル・ベケット、海底、顕微鏡用スライドなどからも影響を受けているように思われる。(略)

ポーランドのジュルジー・グロトフスキーやイギリスのピーター・ブルック同様、安部公房は演劇のもっとも外側の境界、ダンスや彫刻や映画と接触する領域と取り組んでいる。

特にこの作品について言えることは、もしプログラムにのっているものしい注釈を無視するならば、実ははつらつとしたスベクタクルが楽しめるということだ。「仔象」二、三度、胴体らしきものがある（らわれる）は生き生きとした動物である。舞台の上にあられる一つ一つのイメーシはその前のイメーシから有機的に芽生えてきて、高速度写真で観察した場合の花のように、目の前でつばみがふくらみ、花が開き、しおれていく。

この芝居は誰もが楽しめる類いのものではない。芝居のよろこびは全く視覚的なものである。時として俳優がヘルメットをかぶって現われたり、りんごをかじったり、懐中電灯を点滅させたりはするが、この芝居は基本的には抽象である。ケネディ・センターはこれまでこのようなものを上演したことはなかった。少くともヌリア・エスバートの劇団がトランポリンのベッドの上で「イエルマ」を演じて以来のことである。誰もテラス劇場を特に実験演劇にのみ限って欲しいと希望している者はあるまい。だが、氷が破られ、先例が作られたというのは、今後の励みになることである。

(ワシントン・スター)

「華々しきハイジャック——「仔象」におけるマルティ・メディアの攻撃」

ジエイムズ・ラードナー

一つの異国文化が昨夜ケネディ・センターを席捲し、本来こうした類いの出来事を阻止する立場にある高官たちを圧倒し、テラス劇場をハイジャックし、我々の知っている演劇に対して、目のくらむようなマルティ・メディアによる攻撃をしかけて来た。

この異国文化の名前は安部公房といい、厳密にいうならば、彼は招かれざる客として押しかけて来たわけではない。彼の「仔象は死んだ」と題する「イメーシの展覧会」は、日米両政府の主権によってアメリカを巡業中の日本芸術祭の「今日の日本」一環として訪れたものである。

だが安部公房自身は自らを放浪者と見なしており、昨晩の観衆は、公演が終った時点で他にどのような感情を抱いたとしても、ほとんど一人残らず、あの場所であのようなものを見たことに対するショックを表明していたのである。しかしそのショックは完全に快いショックであった。

階下のアイゼンハワー劇場では、「ジン・ゲーム」の中でヒューム・クロニンとジェシロ・タンデイが旧式な長口舌をふるいあっている時、テラス劇場では俳優たちが他の媒体ととり組んでいた。それはサーチライト、シート、竹馬、テニスのラケット、映写機、りんご、そして彼ら自身の流動する肉体であった。(略)

時としてその布は半透明になり、その下で流動している肉體や明るい色の照明がすけて見える。また時には不透明なふるえる塊となり、その下にいる俳優たちの動きによって巨大な一匹の動物が形づくられる。多分タイトルにある象らしい。また時には空気を十分注入されてどんどんふくれ上り、劇場中を占領するのではないかという恐怖を起こさせる。昨晩の視覚的饗宴はわずかばかりの言葉の切れっばしを伴ってはいたけれども、安部公房の作品は彼自身の言葉も批評家の言葉も、すべての言葉に挑戦している。

マルティ・メディア演劇の歴史は不運な歴史であり、概ね「過ぎたるは及ばざるが如し」の格言を再三、再四確認する破目になっていた。安部公房はこの傾向を逆転させる決定的な力である。

(ワシントン・ポスト)

- 7 -

生きた芸術としての「仔象」の衝撃

アーリン・ネルハウス

「芸術の目的は疑問を呼び起すことであって、解答を与えることではない」安部公房はアンバーにおけるあるインタビューの席でこういった。

非常に内容の凝縮された一幕物の「仔象」は、視覚的に目ざましいものがある。舞台の床は巨大な白い敷物で覆われている。その後方に白い長方形の布張りの壁があつて、その下方は切り抜かれた部分にカーテンがかかっている。大して使い出もなさそうだが、はじめ見た時は思うだろうが、とんでもない誤解である。

照明があたり、空気が吹きこまれ、若い俳優たちの統一のとれた動きがはじまると共に、床に敷かれた布に生命が宿り、あるときは抽象的な形象に、ある時は人間の形象に、ある時は墓地に、ある時は魚に、そしてついには仔象になるのである。俳優の何人かは十分伸ばせるずだ袋のような衣裳をまとい、これを用いて様々な幻想を作り出すが、一方ではこの衣裳がスクリーンとして用いられ、この上

にセリフの英訳が映写される。必ずしも常に読めるとは限らなかつたが、日本語を解さない観客に語りかけるにはうまい方法である。

俳優達はまたその肉体をも幻想的な用い方をする。ある場合には何人もの俳優がその四肢をからみあわせて、巨大なのたくつているムカデに見えるようになる。白塗りの面のような顔をした二人の俳優が高い竹馬の上に乗って、舞台上の動きを見下しながら、舞台の端と端でりんこの投げ合いをやっている。この二人は裁判官である。ここで安部公房の言わんとしていることは明瞭だ。

「仔象」の衝撃は生きている芸術を見るのに似ている。舞台も息もとまるほど美しい。時としてなかなかユーモラスで、別の場面はヒリヒリと感情に訴えてくる。様々な夢や、はてることのない探しものについて語り、「弱者への愛はいつも殺意がこめられている」という宣告で終る。安部公房は何事かを語りかけているというよりもむしろ疑問を投げかけているのである。

岡崎涼子訳

(デンバー・ポスト)

- 9 -

日本の劇作品「仔象は死んだ」について

メル・ガソー

安部公房自身が書き、演出し、作曲もし、彼の夫人安部真知氏がステージ・デザインを担当しているこの芝居は、一連の視覚と聴覚による印象の連続である。そこにあるのは幻想の世界であり、我々はそれを見守るうちに、安部氏のファンタジーの世界にひきこまれる。ある意味で安部公房はアクション・ペインターのようなもので、そのパレットから光、音、映像、舞台装置、俳優を繰り出して絵をかくのである。彼はまた実験演劇や舞踊とも係りがある。我々は彼の作品の中にロバート・ウィルソン、オーブ・シアター、アーウィン・ニコラス等々と同種のひらめきを感じとることができる。

「仔象」の舞台で一番重要なものは一枚の大きな白い布である。これは舞台全部を覆いつくす絹のパラシユート用の布地で、まるで魔法の絨毯の役目をする。ある時は、ただまっ平に敷かれてある。ある時は波うってのたくる。そしてまたある時は空中に

- 10 -

立ち上る。照明の加減で布は半透明になったり、不透明になったりする。俳優たちが布地の向う側にいてシルエットだけみせて踊っているとき、それは原始時代の洞窟の壁画のように見える。また俳優たちが布の中に入って、生きている不思議な風船のような形をつくり上げたりする。また俳優たちが外へ出てちよこちよここと動きまわる時、衣裳をつけ、エナメル様の仮面をつけた姿は目ざましい現代版の歌舞伎を思わせる。

「仔象」は悪夢ではないが、ルイス・キャロルだったら直ちに理解するような夢である。(略)

「仔象は死んだ」は、今シーズンのはじめにラ・ママで短期間上演されたポーランドのダテウス・カントーの「死せる階級」のように、過度の社会問題に対する主張を持った作品ではない。だが、カンターと安部公房は独創的で変容自在のヴィジョンと、作者自身の感性の延長のように動く一団の俳優を持っているという点で共通している。行動芸術家としての安部公房は演劇における偉大なパフォーマーであり、デザイナーである。

(ニューヨーク・タイムズ)

イメージの展覧会

仔象は死んだ 上演案内

THE LITTLE ELEPHANT IS DEAD

六月一九日(金)ー七月八日(日)

平日七時 土曜二時七時 日曜二時

会員一五〇〇円(予約受付中)

渋谷パル「西武劇場」

安部公房スタジオ編集発行

安部公房の劇場 刊行案内

①安部公房スタジオ公演舞台写真集

②安部公房 演劇ノート

③安部公房演劇劇評集

「仔象は死んだ」公演会場にて発売

B5判 定価一、二〇〇円 送料160円

『文章読本』論

(7)

三島由紀夫

岩田英哉

7. 1959・昭和34年：三島由紀夫（34歳）昭和初年生

伊藤整の文章読本が1960年代の高度経済成長の前触れであるとするれば、これに対して、三島由紀夫の文章読本は高度経済成長の終焉を、実際に其の死がさうであるやうに、読者に告げるものとなつてゐるでせう。それは従ひ、日本語に生きる日本人が如何に生きるべきかといふ問に対する答に、三島由紀夫の文章読本は、なつてゐる筈です。

この文章読本を三島由紀夫が著した背景を、文庫本（中公文庫）の解説者野口武彦が次のやうに冒頭に書いてゐる。

「故三島由紀夫氏の『文章読本』は、昭和三十四年（1959）年一月、雑誌『婦人公論』の別冊付録のかたちで世に出、同年六月に中央公論社から単行本として発行された。その執筆は、三島氏の作品年譜の上では長編小説『鏡子の家』を書き続つづけていた時期にあたっている。」

『鏡子の家』は、三島由紀夫の人生の転換期に書かれた時代の正に日本の現代そのものを、1954年（昭和29年）4月から1956年（昭和31年）4月までの2年間を舞台に、アメリカの資本主義の盛りのニューヨークと、同じく経済の復興しはじめた東京の両方を舞台にした「時代小説」で、この小説の完成にも拘らず、当時の文壇の棲息者は誰も評価せず否定的な評言ばかりを弄したために、後年映画雑誌での大島渚との対談で、この文学の世界にゐる筈の人間たちの冷たさに言及して、この作品は自分の赤ん坊であつたにも拘らず其のために橋の上から川の中へと赤ん坊を投げ捨てなければならなかつたと、その悲しみと苦しみを短い隠喩（メタファ）で吐露してゐます。この世評にいふ失敗作といふ評価のお陰で、三島由紀夫の作家人生は狂いを生じて、11年後の市ヶ谷での事件に至つたことは、「『鏡子の家』の中のS・カルマ氏」（もぐら通信第96号）で論じた通りです。以下引用します。

「『鏡子の家』の中のS・カルマ氏」で論じた通り、そしてそれを私は論理とし

てそのやうに書いたが、しかし文字で明らかに示した訳ではない私の結論を、ここで文字にすれば、

三島由紀夫を殺したのは、三島由紀夫の読者自身である。

といふことです。もう少し言葉を尽くせば、

三島由紀夫を殺したのは、『鏡子の家』を理解せず、作者と作品に極く冷淡な態度を当時示した文壇と三島由紀夫の読者である。

といふことです。もう少し言葉を尽くせば、

三島由紀夫をあゝの死に追いやつたのは、『鏡子の家』を理解する事が出来ず、作者と作品に無関心といふ冷酷な態度を当時も今も示してゐる三島由紀夫の愛読者である。

三島由紀夫の世界に行けば、読者の間（研究者を含む）では其の死の原因を巡り、議論百出で喧（かまびす）しい。しかし、これら名探偵諸君が実は真犯人自身であつたといふトリックには誰も思ひが至らない。大島渚との対談で、再度引用すれば、三島由紀夫は次のやうに率直このことを語つてゐるにも拘らず。

「『鏡子の家』でね、僕そんなこというと恥だけど、あれで皆に非常に解ってほしかったんですよ。それで、自分はいま川の中に赤ん坊を捨てようとしていると、皆とめないのかというんで橋の上に立ってるんですよ。誰もとめに来てくれなかった。それで絶望して川の中に赤ん坊投げこんでそれでもうおしまいですよ、僕はもう。あれはすんだことだ。まだ、逮捕されない。だから今度は逮捕されるやうにいろいろやってるんですよ。しかし、その時の文壇の冷たさってなかったんですよ。僕が赤ん坊捨てようとしてるのに誰もふり向きもしなかった。」（大島渚との対談「ファシストと革命家」（『映画芸術』1968年1月号）

[註1]

「『鏡子の家』の中のS・カルマ氏」（もぐら通信第96号）および『何故安部公房は1973年（昭和48年）に『無名詩集』を巡る対談を自ら企画したか～『鏡子の家』の絶望と『無名詩集』の絶望～』（もぐら通信第97号）

『鏡子の家』を発表した期間は、1958年10月から雑誌に発表開始後、その後新潮社より単行本としての刊行のなつた1959年9月までであるのに対して、『文章読本』を執筆した期間は、この期間に重複して、1959年6月25日に単行本として刊行されてゐる。『鏡子の家』の骨格は、三島由紀夫流の「時代小説」を書くために新たに作家としての人生の主題を洗い直して整理をした次の四つの骨であり、この作品は自分の人生の転機となる作品でした。

- (1) 言葉
- (2) 行動 (アクション)
- (3) 性 (セックス)
- (4) 形象 (イメージ)

この四つは死の直前の池袋東武百貨店での『四つの河』の各河の名前となつてゐます。同じ此の自分の文学人生の骨格を、1966年2月に雑誌『文藝』誌上で三島由紀夫は安部公房との優れた世紀を超えた予見的な対談『二十世紀の文学』（全集第20巻、55ページ）で詳細に語つてゐます。

このやうな主題の重要な転換を行なつた時期に書かれたのが、この『文章読本』でもあるといふことは、三島由紀夫の人生上の此の読本の位置も、従ひ、その価値もよく、これで理解ができます。

さて、その上で、文章に関する三島由紀夫の結論をいへば、

文章は文体・様式・style・スタイルである

といふ結論が、「第一章 この文章読本の目的」に書かれてゐます。これ以降の第二章から後は、散文の範疇ごとによる解説であり、この範疇は多才な三島由紀夫らしく、次のやうな分類になつてゐる。

- (1) 小説 (第三章)
- (2) 戯曲 (第四章)
- (3) 評論 (第五章)
- (4) 翻訳 (第六章)

そして、最後に文章に関する技術の問題として、

(5) 文章技巧 (第七章)

が置かれており、更に、これも三島由紀夫らしく、文章技巧の元に次の描写に関する技術が下位分類されてあります。

(5) 文章技巧 (第七章)

- ①人物描写 (外貌)
- ②人物描写 (服装)
- ③自然描写
- ④心理描写
- ⑤行動描写
- ⑥文法と文章技巧

結語として、最後尾に置かれてあるのが次の一章です。

(6) 文章の実際—結語

さて、文章は文体・様式・style・スタイルである、といふ結論を巡って第一章に書かれてあることは次のことです。

(1) この『文章読本』は読者のために書いてあること

(2) 文体・様式の問題を読者である人に伝えたいこと。その動機と目的は

①「昨今の「文章読本」の目的が、素人文学隆盛におもねつて、だれでも書ける文章読本といふやうな傾向に陥る傾きのあるのを、少し苦々しく思ふためにほか」ならないからである。

②「読む側からの「文章読本」といふ点だけに限定した方が目的も明確になり、素人文学に対する迷いを覚ますことにもなると思ふ」からである。

(3) 小説の読者には、チボーデの分類を借りて次のやうに述べてある。読者には次の二種類がある。

- ①「普通読者」と訳されてあるレクトゥール
- ②「精読者」と訳されてあるリズール

上記①の小説のレクトゥール・普通読者とは、「小説といへばなんでも手当たり次第に読み、「趣味」といふ言葉のなかに包含される内的、外的のいかなる要素によつても導かれてゐない人」である。

上記②の小説のリズール・精読者とは、「その人のために小説世界が実在するその人」であり、また、「文学といふものが仮の娯楽としてでなく本質的な目的として実在する世界の住人」である。安部公房の読者は、私の知るところみな、この型の読者で、リズールだといふことになります。「リズールは食通や狩猟家や、その他の教養によつて得られた趣味人の最高に位し、「いはば小説の生活者」と言はれるべきものであつて、ほんとうに小説の世界を実在するものとして生きて行くほど、小説を深く味はふ読者のことであります。」

(4) 「私はこの「文章読本」を、いままでレクトールであつたことに満足してゐた人をリズールに導きたいと思つてはじめるのであります。」「作家たることはまたリズールたることから出発するので、リズールの段階を経なければ文学そのものを味はふことができず、また味はふことができなければ、自分も作家となることができません。」

さうして、三島由紀夫は、やはりこれまで見てきた作家たちと同じく「文章道」といふ言葉を用ひて、「本来の文章道」の本質は、文体・様式・styleにありといふのです。三島由紀夫の文体と様式の問題は、前者の文体（と訳されるstyle）の問題は、そのまま様式（と訳されるstyle）の問題として作品全体の構造に関はる問題ですが、三島由紀夫はstyleを更に効果の視点から、次の二つに分類してゐます。

(5) 様式・文体・styleの分類

- ①面白さ
- ②美しさ

上記①のことは、作家自ら「古典主義の時代」と呼ぶ30代に傾倒したドイツの作家トーマス・マンに同じく習つた私の知見によれば、マンの文体の持つ此の面白さは、更に次の二つに分類されます。

- ①面白さ
 - (a)スリル・thrill
 - (b)サスペンス・suspense

このスリルとサスペンスといふ横文字とカタカナ語には良い日本語が相当しません。あたへて対応させれば、

①面白さ

(a)ドキドキ

(b)ワクワク

といふことになるでせう。また、②の美しさについては、いふまでもないでせう。これまで見た作家たちの文章読本によれば、谷崎ならば声調といひ、声に出して一定の調子があり、耳で聞いて理解ができる文章といふことを含むでせう。と同時に、文字をみての美しさも、日本語の場合には入ります。声調と文字の美しさの両方を兼ね備へた文例として、「付 質疑応答」といふすべての章の最後につけた付録の最初に「一、人を陶醉させる文章とはどんなものか」と題して即座に谷崎の、永井荷風に賞賛されて世に出た此の作家の処女作『刺青』から、その好例として一節を引用しております。これは、しかし、確かに三島由紀夫の様式・styleであり文体・styleの嗜好でもあります。

「一点の色を注ぎ込むのも、彼にとつては容易な業でなかつた。さす針、ぬく針の度毎に深い吐息をついて、自分の心が刺されるやうに感じた。針の痕は次第々々に巨大な女郎蜘蛛の形象を備へ始めて、再び夜がしらしらと白み初めた時分には、この不思議な魔性の動物は、八本の肢を伸ばしつゝ、背一面に蟠つた。

春の夜は、上り下りの河船の櫓声に明け放れて、朝風を孕んで下る白帆の頂から薄らぎ初める霞の中に、中洲、箱崎、霊岸島の家々の薨がきらめく頃、清吉は漸く絵筆を擱いて、娘の背に刺り込まれた蜘蛛のかたちを眺めて居た。その刺青こそは彼が生命のすべてであつた。その仕事をなし終へた後の彼の心は空虚であつた。」（谷崎潤一郎『刺青』）

第一章の文章読本の目的の最初に、三島由紀夫は文章には実用を離れた「観賞用の文章」といふものがあるのだと其の最初の段落で述べてゐます。果物でいふならば「観賞用の果物といふのがあります。」といひ、「一例が仏手柑で、これは見て、香をたのしむだけのもので、喰べるものではありません。」文章にも此の手のものがあつて、これには「微妙な職業的な特質があるのであります。」

それでは、三島由紀夫は観賞用の文章と実用の文章とを区別してゐるかといふとさうではない。この「微妙な職業的な特質がある」文章、即ち谷崎が「文章

に実用的と藝術的との区別はない」といふのと同じことを三島由紀夫は『文章読本』の最初に述べてゐる。結局、これまでみてきた小説家の主張は皆同じ一点で、このことに同意をしてゐる。これを三島流にいふと次のいひ方になるのです。

「誰にでも書けるやうに見えるごく平易な文章、誰の耳目にも入りやすい文章、さういふ文章にも特殊な職業的洗練がこらされてゐることは、見逃されがちであります。現在ではたとへ鑑賞目的であつても、その意味がうちに秘められて、表面あたかもふつうの実用的な文章と変はらないかのごときを装ひしてゐるといつてもいいでありませう。」

実用的な文章で、しかもリズムにも読むに堪へる文章の特質を、三島由紀夫は「微妙な職業的な特質がある」文章といつてゐるわけです。もしあなたがリズムになり、その次に此の高級な読者から作者になるといふ此の心のうちで起きる飛躍の劇が一体如何なるものかについては、安部公房と三島由紀夫の対談『二十世紀の文学』の「作者の中の読者」の対話に詳しく其の議論が採録されてゐます（『二十世紀の文学』全集第20巻、79ページから83ページ）。

私は、三島の云ふ「微妙な職業的な特質がある」文章を、同様にトーマス・マンと、そしてショーペンハウアーのドイツ語の文体に教はりましたが、しかし、言語が異なる以上、この文体の移植は肉体の改造に他ならず、三島由紀夫が肉体を鍛へることで文体を鍛へたことは、私の眼には自然なことのやうに思はれます。この努力が三島由紀夫の読者の眼には三十代初の作家の奇異な変貌と映つてゐることは知つてゐますが（しかしトーマス・マンに學ぶ古典主義の時代の初めに一致してゐる）、さうであればまた、三島の読者も、折角三島文学といふ華麗な文体を持つた日本語の現代文の読者であるわけですから、自らの肉体を改造して、スリルとサスペンスに満ちた作品を書いて欲しいものです。同じ努力を漱石はして、帰国後に尚修善寺で咯血をした。漱石の吐いた血の量を、彼の地で私の口も日割り計算して毎日吐いた。それが私のドイツ語であつた。

私たち安部公房の読者は、全く対照的に安部公房のいふ如く、自宅からスーパーマーケットを往復する間に使ふ語彙で小説を書くといふ作家の読者でありますから、これは此の流儀で文章道に精進するのがよろしからうと思ひますが、如何か。「自宅からスーパーマーケットを往復する間に使ふ語彙で」書かれた小説群に、私たちはやはり美を感じてゐて、その美にある哀切な感情にも強く惹かれて、小説であれ戯曲であれ、リズムである私たちにも、果たして肉体の改造が必要ではないかと考へてみることは意味のあることではないでせうか。さう考へますと、安部公房スタジオの俳優たちの受けた肉体の訓練が、

間違ひなく此れに当たるものだと合点が行くのです。

それでは従ひ、日本語に生きる私たち日本人が如何に生きるべきかといふ問に対する答に、三島由紀夫の文章読本は、なつてあつてせうか？下記の年譜に三島由紀夫の名前を加へると、伊藤整の文章読本と共に、この文章読本は確かに個人的な転換期に一致して時代の転換期のまつ只中で書かれたことがわかります。

2021/09/12, 09/20, 09/27, 09/30 enya iwata						
文章読本からみた近代日本史(v4)						
元号	元号の年数	西暦	事変	作家名	作品名	備考
明治	元年	1868	明治維新			
	18	1885		坪内逍遙	小説神髓	
	30	1897		同上	当世書生気質	1886年まで連載
大正	12	1923	関東大震災	谷崎潤一郎		関西へ移住
昭和	9	1934		谷崎潤一郎	文章読本	
	12	1937		小林秀雄	菊池寛論	
				菊池寛	文章読本	
	20	1945	ポツダム宣言受諾			
	21	1946	日本国憲法公布			
	25	1950		川端康成	文章読本	
	26	1951	サンフランシスコ講和条約			
	28	1953	テレビ放送開始			
	29	1954		伊藤整	文章読本	
	31	1956	国際連合加盟			日本の作家にとって、この間の文章上の問題は常に、(1) 翻訳語も含めた語彙の選別と(2) 文体・style・様式の確立の問題であつた。
	34	1959		三島由紀夫	文章読本 鏡子の家	
	35	1960	東京タワー完成 日米安保条約調印			
	39	1964	東京オリンピック			
	7	1995	阪神・淡路大震災 三陸沖地震			
平成	12	1937				平成の30年間は文章と生活実感の乖離した30年間であつた。これが文章読本から見た平成の30年間である。経済の面では失はれた30年。文化の面では報道記事の事実を裏切る捏造・虚報ばかりの30年であつた。
令和	元年	2019				

この年譜のダウンロードは：<https://docdro.id/OiEBsYq>

日本語に生きる私たち日本人が如何に生きるべきかといふ問に対する答へを以上の概要に求めれば、読者よりズールとして生きなさい、生きてもしリズールから小説家に飛躍することができたならば、リズールを対象として値する小説を書い

て生きなさい、といふことになります。生きるために読み、生きるために書きなさいと云ふ三島由紀夫の文章道です。

8。1975・昭和50年：中村真一郎（57歳）大正生

（続く）

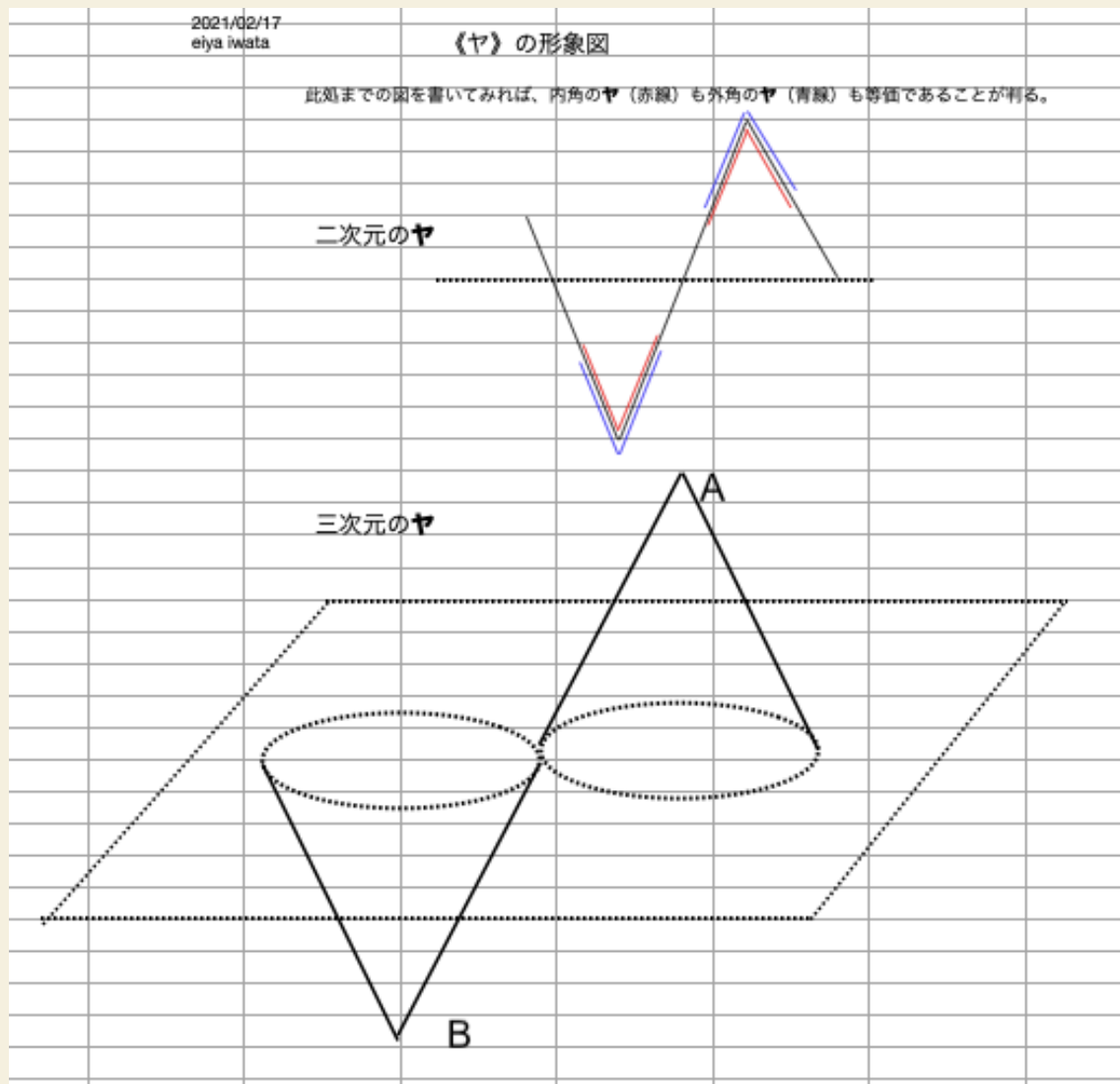


Mole Hole Letter (65)

超越論 II (第九回)

岩田英哉

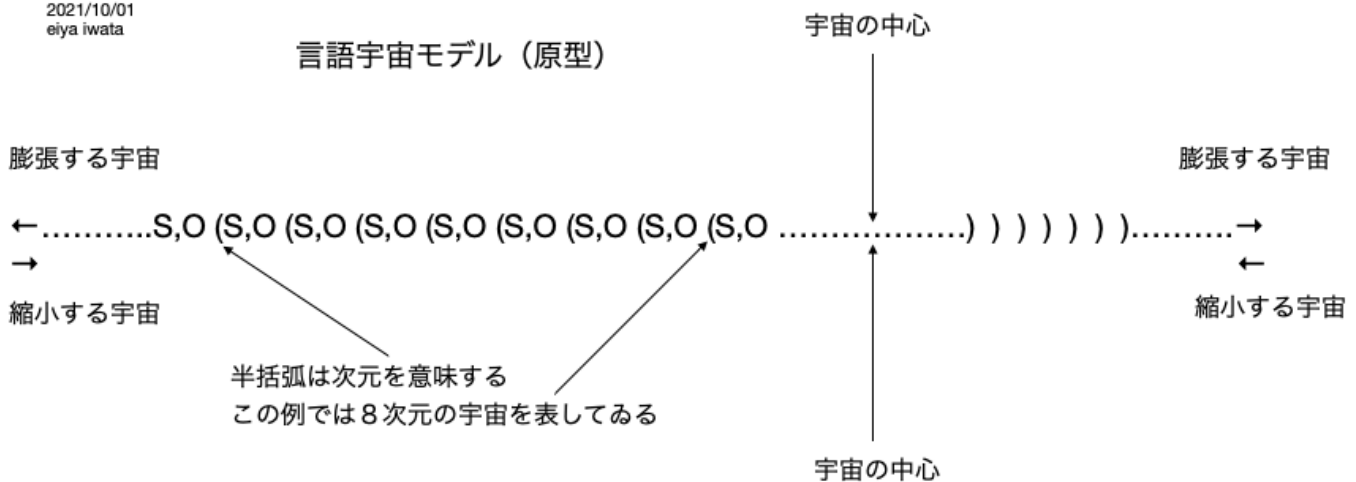
変形4 [本来の言語宇宙モデルとしての原型] について詳しく説明します。しかし、その前に別途同時並行で偶然に（本当に偶然か？）論じて来た『縄文紀元論』に使用して来た図が、トーマス・マンの円錐形を上下に関係づけた私の言語宇宙モデルにそっくりなので、同じものを此处で再掲してモデルの原型の記号で表した私たちの宇宙の姿についての話をづづけたい。ここまで来ると、この『超越論 II』の話も、あと幾つかの主題をめぐって論ずると終はりになるといふ気がします。



かうして此の図を眺めてみても、円錐形の頂点の八《ヤ》の形象は、豊饒の存在屈折点、曲がりであり、宇宙の富の創始点である。私の観たvisionでは、Bの円錐形の底の頂点から発する光の量は莫大な量であつて、爆発といつて良いものでした。私は其の爆風に逆らつて此の光源に留まる決心をした。これを観たのは二十歳の頃です。この光源はvisionであり、従ひ時間と空間を超越して実在するものです。

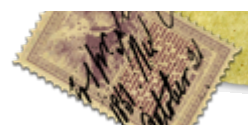
これに対して、上図光源Aは、18歳のトーマス・マンの描く所では何故かさうではなく、静謐で静寂で物音一つしない沈黙の世界であり、沈黙の円錐形です。その意味でも、この二つの正立・倒立の三角錐は、いずれが正立でいずれが倒立かは解りませんが、対照的であり、対称的です。さて、私の子供の頃からの数々の数へ切れない冒険の結果至つた、記号化した究極の言語宇宙モデルの話です。既述のロシア人形のマトリョーシュカか、a nest of spoonsか、または此れが解り安ければ、渦巻模様を、どちら巻でも結構ですから、念頭に思ひ浮かべて、私の説明をお聞き下さい。私は此の記号化したモデルで文章を読んでゐます。それはどのやうな何語による文章でも同じ、古事記も万葉集の和歌も同様です。即ち、これが、日本語とドイツ語と英語を主たる材料にして、その間古代ギリシャ語、ラテン語、フランス語、ロシア語、サンスクリット語を謂はば齧りながら、遂に至つた普遍言語モデルです。これが、どんな単純な規則で、即ち私の名付けた名前で云へば、「唯一の普遍言語規則」で生まれるのかについては後述します。あまりに日常的なコトでありモノなので、あなたはきつと驚く筈です。縄文人と自ら再帰的に呼んでゐるといつて良い此の私たち日本人（実は依然として縄文人）の文明は誠に偉大です。

2021/10/01
eiya iwata



S : SUBJECT (主観・主体・主辞・X) の意味
O : OBJECT (客観・客体・賓辞・Y) の意味

意図してヨーロッパ地域のキリスト教のスコラ哲学用語であるsubject・objectを用ひてゐる。日本語の私たちの縄文形而上学ならば、八《ヤ》一音義の発声で言ひ仰せて、お仕舞いです。



サンチョ・パンサを求めて

(18)

コンピュータ時代にはどんな人間が強いのか

(3)

岩田英哉

目次

- g: 9。レジャーと労働の結合
- h: 8。教育革命を断行せよ
- i: 5。教師の給料を大幅アップ
- j: まとめ

g: 9。レジャーと労働の結合

本当は、二人の対談では、この章が最後にきてゐるのですが、教育革命と教師の給料を大幅アップせよといふ安部公房の主張の前に持つて来て、対談の中身をかいつまんで説明します。この主題は今も生きてゐるといふことは、どう考へてもさうなので、この順序で論ずる価値はあるでせう。

ただ、当時とは言葉が入れ替はつてしまつてゐて、この日本語の用語の流行り廃りの多いのも困つたことですが、今ならば、レジャーは余暇か暇（ひま）か、何と言つてゐるものか、労働は単に仕事といふことになつてゐるかも知れず、実は日本人にとっては仕事は本質的に苦役ではない（私たちはキリスト教徒ではないので）、好きで仕事をして来たのです。一日中仕事をして楽しいといふのが私たちの仕事観であり、これを勤労観といつて来ました。夜になつて、仕様がねえなあ、こんな時間かといつて嫌々仕事を止めるのである。私はさうでしたが、これは私だけではない。それを法律で定めて残業するなどいふのは、政治家も官僚も頭がAOC（頭の・おかしな・コルテス）なのではないか？日本の教育からこんな輩が出てきて国家権力の中枢にゐすわつてゐるとしたら、国が傾くので（今でも傾いてゐるが）、困つたことである。しかし繁忙期になると霞ヶ関の当該官庁の建物には深夜でも煌々と電気がついてゐることは複数の人から聞いてゐるので、まづなすべきは、国民が政治家と役人を洗脳する前に、役人が政治家を洗脳することではなからうか。

私がドイツの大企業に職を奉じた時の会計・経理上の費用の仕分けで知つたドイツ人の仕事観はまさに労働観でした。国際的にドイツ本国との税務処理に整合性を持たせるために、ドイツ人の説明を聴いてゐると、次のことが解りました。



- (1) 社内で接客で出すコーヒーは必要経費である。
- (2) 社外で営業マンの飲むコーヒーは必要経費ではない。
- (3) 社内で掛ける携帯電話の料金は必要経費である。
- (4) 社外で同じ（会社供与の）携帯電話を使つて掛けるのは必要経費ではない。だから、私用の電話を使ひなさい。あるひは、仕事目的である事実を証明しなさい。

といふ仕分けをしてゐるのを聞いてみて理解したのは、ああ、ドイツ人といふのは、人間といふ奴は会社の外に出ると遊んでゐるので、仕事をしないことが十分にあり得る、人間とはさういふ生き物だと考へてゐるのだなといふことでした。つまり、仕事観は人間観なのでした。そのくせ、社内でドイツ本国の恋人に国際電話の長話をして十万円に届かうといふやうな電話料金を会社が負担してゐたといふのは実に矛盾でしたが、しかし此のドイツ人といふのがもう三代目にならうかといふ移民のトルコ人で、この同僚の言い訳、弁解、知らぬ存ぜぬの論理展開と説得力は素晴らしいものでした。私もこんな人間になつてみたいものだ。何よりいいのはやはり性格が大事で、底抜けに明るいのである。イタリア人もかうやつて平気で嘘をつくものであらうか。それであれば素晴らしいことである。やはり儒教の世界よりは、かういふ明るい底抜けの世界がいいな。あるひは地中海あたりの島々に住む人間たちは、としたら、哲学といふ学問はかういふ、成る程ソフィストを含む嘘つき大好き人間であり且つ根アカ人間たちから生まれたものかも知れない。さうしてトルコ移民たちは遅しく陸地国家ドイツで生活をして来たといふことなのでせう。さて、しかし、我が日本民族の対談当時の実態や如何に。

日本人の余暇と労働の関係の話をもっと最初にするのにアメリカの例を引き合ひに出して、アメリカ人は余暇が生まれると郊外での農作業に精を出すといふ話をするのですが、ソヴィエト連邦の話ならよかつたかも知れないが、その例を出して述べる論理がやはり1950年代に日本共産党員になつた後でも党内で主張した論理が推測される論理展開で、「将来、労働時間が短縮するにつれて、余暇をもてあますんじゃないかと心配する人がいるが、そんな心配は不要ですよ。余暇が本当に拡大してくると、逆に労働価値が高まつて、労働と余暇というものが、内的に結合していく。」といふ主張が、安部公房の主張なのですが、日本共産党内で、アメリカの例を引き合ひに出し、内的結合などといふと、やはり安部公房は日本共産党を首になるだらうなと、この発言を読むときさう思ふのです。

これに対して、木川田さんといふ方は、「東京電力に入社して四十三年間電力一筋に生きて来た」といふ経歴の人ですから、余暇などなく仕事ばかりの仕事

人間である筈なのに、いふことは仕事の鬼になれといふのではなく正反対に「産業社会の本質は、やはり個人の労働を通ずる創造性が中心にならなければ、技術革新も社会の進歩につながらないわけです。」と述べ、更に「われわれは、個人（個）と組織（全体）との調和的発展の実現を目指して努力している」といふのに対して、安部公房が、また同じ指摘をして（ここが小説家であり戯曲家である）「その場合調和という問題は、あんまり早く設定せずに、むしろ不調和間かテンションということを否定せずに見つめて、その内容をとことんまで見きわめることが先決だと思う」といふものの、これまでと同様二人の意見は噛み合はない。何故ならば、木川田さんといふ経営者は抽象的で大きいものを見、安部公房は具体的で小さいもの見るからです。この行き違ひは最後まで続きます。前者の経営者は、自分は「分析から出発するものと、理想を設定して現実改革に取り組むやり方」のふたつがあつて、安部公房が前者であるといふことは理解しても、後者の理想主義でゆく改革を好むといつて、しかし、ここで持ち出す言葉が、「調和とか、秩序とか、そういう進歩の価値概念」ですから、これは二十一世紀の今の世になつてよく理解ができますが、共産主義にほかなりません。今の流行語でいふグローバリズムです。これが個人の所得を下げ、人を不幸にすることは、我が国で既に証明済みですから、木川田さんといふ方に、タイムマシンに乗つて途中から此の対談に参加して、あなた、そんな馬鹿なことは止めなさいといひたい位です。学歴と、個人の幸福を問考へる能力は別のものだと、これだけ時間が経つと、よくわかります。後者の能力を欠くと、人の上にたつても悪事を結果として為すといふことも解ります。

この発言に対する安部公房の回答は実に辛辣で、勿論本人にその自覚がないし、これが此の作家の良い所ですが、かう答へてゐます。これは、そのまま、安部公房の主張する次の章の題名である教育改革の方法論です。

(1) 「セメントでもひびがはいると、いっぺん全部こわして、鉄筋を入れかえたほうがいいということがあるわけですからね。」

(2) 「もし不調和なり、テンションなりを正確にお出しになったら、ぼくは、それだけでも大変なことだと思いますね。そのへんはだいたいみんな逃げてしまっている。とくに経営陣にいらっしゃる方は、逃げるでしょうね。だれもが出来れば逃げて通りたいところですから……。」

上記(2)が帰納法、その結論を得た上での解決策が上記(1)の、小さなヒビを予兆とみて、建物を一度壊して鉄筋を入れ替へよといふ、これが安部公房の二段構への教育革命論です。木川田さんといふ経営者の論法は演繹法と云ふことになります。

この章の結論をいへば、私の観察する所、仕事のできる一流の人間というのは



軒並みに、仕事をしてゐるのか遊んでゐるのかわからない人間たちでしたから、こんな余暇と労働などといふ区分をして実は何かが生まれるわけでもないのです。これは唯一絶対神が宇宙を6日で創造して日曜日に休んだと云ふお話の元にある世界の労働観。日本人の古来からの仕事観を想ひ出すことが肝要と存ずる。あなたが一流の人間であるならば、夜昼なく土日祝日なく、365日24時間、仕事をするのである。遊びながらのついでに。私はさう考へてゐる。

h: 8. 教育革命を断行せよ

安部公房の教育革命を支持する教育理念というものは、解答機械であるコンピュータの教育への導入を前提にして、かうなると、定型的解答型人間ではなく、問題提起型人間と仮説設定型人間が必要とされ、本来の人間の能力計測の規準が大きく変更を迫られてゐるにも拘らず、それが今の学校教育ではなされてゐないので、「英才教育」「天才教育」は、みんな、「解答天才」ですよ」と断言してゐる。しかし、依然として木川田氏は演繹的で、企業も国家も組織に変はりはないと知つてゐながら述べる意見は、

(1) 「企業の中でも一つの進歩のための理念的な教育をやろうというときには、どうしても新しい教育の体系、原理を考えていかなければならない。」

と云ふ意見で、これに対する安部公房の主張は首尾一貫して、論理も変はず、前の章の経営者は具体的な問題から逃げると云ふ指摘に応じた論理を学校教師に適用して次のやうに云ふのです。曰く、

今の「学校改革」は姑息なもので、「もっと本質的なものが必要」なのだといひ、しかし教師自身が「解答教師」なので、「こわくて、なかなか言い出せない」と急所を突いてゐる。確かにコモン君もS・カルマ氏も箱男も何も、安部公房の主人公は解答型人間では全然ない。次の安部公房の発言を読むと、解答型人間教育の実際がよくいひ当てられてゐる。

「いうことを聞く学生に教えるのは簡単ですよ。しかし、いうことを聞かない学生に教える教育者でなければダメですよ。」

「いうことを聞かない学生に教える教育者」像とは、確かにコモン君もS・カルマ氏も箱男でもあるにはありますが、果たして教育者になれるかどうか、これが問題です。ならなくても良いと云ふ解答もあるので、さうなれば、教育者は不要であるといふ極端な論も当然起こり得て、結局二十一世紀の今に至るも、



解答型人間教育だからであり、その教育改革としての私の教育革命案は既述の通りです。整理すると、

教育は、所与定型解答型人間教育－問題提起型・仮説設定型人間教育の両極端の間を依然としてフラフラしてゐるか、依然として所与定型解答型人間教育のままであると云ふことになります。この教育革命による富の移動についてはこれも上掲座標に示した通りです。

この主題の章の最後に二人が一致してゐるのは、日本人の持つてゐる一大問題である、「主体性があると、出るクイは打たれちゃうから……。」と云ふ安部公房の発言と、これに対するに「現代の大衆社会は、個人の個性の新鮮さを失って、砂のように流れている。」などといふ同調の仕方を見ると、安部公房の名作『砂の女』を読んで対談に臨んだに違ひない此の同意の二つです。日本人の弱点である同調圧力に弱いといふ付和雷同型人間の一掃のための処方箋が教育革命といふことになります。こんなことを考へると、やはり学校へは行かないことが一番といふ結論です。といふことは、やはり私塾を盛んにするのが良いといふことになりますが、しかし私塾の塾長たる傑物が全国津々浦々にどれだけゐるものか。地方の土地柄と伝統を大切に致したい。

この章の最後に、安部公房が構想した国家の発展のための教育庁（教育省ではないことに注意。二義的なものが一義的なものを支配してゐると云ふトポロジの論理なのです）を置いての日本国家国體変形論を『安部公房とチョムスキー（11）』（もぐら通信第93号）の「13. 安部公房の国體変形論」より以下に引用します）。話が、安部公房とチョムスキーの言語論ですので、この「超越論II」からはみ出す議論もありますが、しかし関係して枝葉が大きく伸びた議論ですから、道草だと思はずに、これもお読みになつて下さい。安部公房の構想は要するに、子供たちに若者に哲学を教へよと云ふ主張である。これには私も賛成です。あなたにおかれては如何。

「13. 安部公房の国體変形論

晩年まで人間個人との関係で人間の組織の最大のものとしての国家とは何かを考へ、また国家の均衡（バランス）ある経営のために言語と哲学教育の必要性から教育「府」の設置を考へた安部公房の読者の一人として、『安部公房とチョムスキー（11）』（もぐら通信第92号）の「10.2 第二次世界大戦を三つの戦域に分ける」の章で国家の定義をし、意志の定義をし、これら二つの定義の上に国家意志の定義〔註15〕をしましたので、この章では、冒頭述べた衝撃的な驚きを衝撃のままに生かして、この三つの定義の上に、この衝撃の間



題解決を考へたい。

[註15]

(1) 国家の定義：国家とは、自然>神話>歴史>伝統>文化>(政治、経済)の入籠構造をなす円環の中で、時間の中で生きる人間のつくる最大の組織である。

(2) 国家意志の定義：国家意志とは、国家が有する意志である。

(3) 意志の定義：意志とは、その人間の生まれついた民族(民族の遺伝子と言ひ換へても良い)と個別言語の生み出す人間の、政治・経済・文化に関する、かうしたいと云ふ思ひ、またはかうしてはならないと云ふ思ひである。

その前に安部公房の所説を読んでから先の戦後70有余年の今の日本国家が誤訳国家であることの本題に入りたい。安部公房はここで解決策を見事に提示してゐる。《ことば》とは、

《》が安部公房の汎神論的存在論(超越論)の記号[註16]を使用した存在の言葉であることを念頭にお読みください。

[註16]

安部公房の存在論の記号の意味については『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について(3)』(もぐら通信第58号)より「IV「転身」といふ語のある小説を読む(「②詩と散文統合の為の問題下降」期の小説)」以下の章で詳述しましたので、これらの章をお読みください。《》といふ記号は存在または現存在を表す記号です。実際には本文にて後述してゐます。

『シャーマンは祖国を歌うー儀式・言語・国家、そしてDNA』の中で、安部公房は言語と哲学教育のための教育「府」を提案して、次のやうに述べてゐる。まづ言語機能の二つの働き、即ち「分化」機能と「集団化」機能について説明し、TVの「擬似集団形成能力」を例に挙げて、「単に料理済みの情報の過剰だとか、低俗番組の横行とかいうだけでなく、愁嘆場やスターを共有することによる「擬似集団」の氾濫によつて、「集団化」衝動にたいする免疫が出来てしまうのではないかという懸念です。慢性化した「集団化」中毒患者は、国家儀式の肥大化にも、ほとんど気をつかわなくなるでしょう。「分化」機能としての《ことば》は家畜小屋に閉じ込められたつきり、肉や卵の生産にはげむだ



けで、牙をむくことなどとうに忘れてしまった様子です。」(略)「なんとか、此の《ことば》の片肺飛行に終止符を打たないかぎり、「技術」を含む人間の自己投影の成果が正当な評価を受けられない可能性がある。」(略)「一つ「国家信仰」を冷却させるための具体的な提案をしてみたい。現在の民主主義制度はいちおう権力の楕円形型二極構造から、立法、司法、行政の三権分立をとるまでに進化しています。この際それに「教育」のための独立した「府」を追加し、四権分立にしてみたらどうでしょう。もちろん従来の意味での教育とは違います。DNAが《ことば》という鏡の前に立って自己発見するまでの、系統発生の歴史を教育基本法にすえた、新しい教育体系でなければ意味がありません。もはやどんなシャーマンの御宣託にも左右されない、強靱な自己凝視のための科学的言語教育です。存在や認識の「プログラム」を開くと《ことば》という鍵を、ついシャーマンの歌にまどわされて手放したりしないための教育です。人間とはまさに「開かれたプログラム」それ自体にほかならないのですから。」(『シャーマンは祖国を歌うー儀式・言語・国家、そしてDNA』全集第28巻、239ページ下段)

「慢性化した「集団化」中毒患者は、国家儀式的肥大化にも、ほとんど気をつかわなくなるでしょう。「分化」機能としての《ことば》は家畜小屋に閉じ込められたつきり、肉や卵の生産にはげむだけで、牙をむくことなどとうに忘れてしまった様子です。」とある此の言葉は、なんとまあ、今の日本の文学と出版業界の衰退の無様な姿を其のまま予言してゐることでせうか。それにまた適用範囲が広い事には、言論界(そんな世界があつたのか?)もまた然り。

最近の新潮4の5の事件での声明文[註17]を読むと、新潮社もまた「肉や卵の生産にはげむだけで、牙をむくことなどとうに忘れてしまった様子です。」「肉や卵の生産にはげむだけ」といふのは、大量生産の豚小屋の豚や牛舎の牛や鶏小屋の鶏のことをいふのでせう。

そのうち、本物の豚や牛や鶏に牙が生えて来て、牙をムキムキ新潮社の門前に合計100頭を超える家畜達が集合して、LGBT!と叫ぶことであらう。これは勿論、Let's Go Bombing Today!の意味である。家畜の方が知能が上等で、英語ができるのである。新潮社の社屋が豚や牛や鶏に爆破されぬことを祈る。いよいよ、ジョージ・オーウェルの予言は『1984』に於いてのみならず、『動物農場』(原題:『Animal Farm』)に於いても実現するといふ時代になつた。これから時代をジョージ・オーウェルを引用して語るときには、『19



84』のみならず、『動物農場』も引用することにならう。そこで、あはれを覚ゆる吾（あ）が詠める歌三首：

なんとまあ、哀れなるかな人間よ 牛馬豚に 糞（すが）る世の中
いと悲し牛馬豚も人間を家畜にしても食べる部位なし
食べようと頭蓋を開けてみたれどもただスカスカの秋風ぞ吹く

〔註17〕 以下ネット媒体「literax」の「『新潮45』休刊声明の嘘！ 杉田水脈擁護、LGBT差別は「編集部」でなく「取締役」がGOを出していた」
(<https://lite-ra.com/2018/09/post-4277.html>) より：

2018年「9月21日には、同社代表取締役社長・佐藤隆信氏が、公式サイトに「『新潮45』2018年10月号特別企画について」と題した声明文を発表。

「弊社は出版に携わるものとして、言論の自由、表現の自由、意見の多様性、編集権の独立の重要性などを十分に認識し、尊重してまいりました。

しかし、今回の『新潮45』の特別企画『そんなにおかしいか「杉田水脈」論文』のある部分に関しては、それらに鑑みても、あまりに常識を逸脱した偏見と認識不足に満ちた表現が見受けられました。

差別やマイノリティの問題は文学でも大きなテーマです。文芸出版社である新潮社122年の歴史はそれらとともに育まれてきたといっても過言ではありません。

弊社は今後とも、差別的な表現には十分に配慮する所存です。」

この安部公房の考へを図示すると次のようになる。ダウンロードのURLは：
[https:// www.scribd.com/document/393247088/安部公房の国体観](https://www.scribd.com/document/393247088/安部公房の国体観)



Table 1

20181106 岩田英哉 もぐら通信		安部公房の国体改革案	
		A 鎌倉時代以来の楕円形国体	
二極国体			
		↓ 進化	
		B 明治以来の近代ヨーロッパの三権分立（民主主義制度）国体	
三極国体			
		↓ 逆進化と安部公房は呼ぶのではないかと考えられる 何故ならこれは太古以来の大地母神崇拝のtopologyに 戻るからだからである。	
		C 安部公房の考へる四権分立国体	
四極国体			
Network topologyによる 政体=天地初発・国生み神話 topology国体=高天原・ 大八島topology国体= Deep Japanの国体=汎神論的存在による 国体=超越論による国体		<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>古事記の国生み神話：一つの島は四つの国から成る 一つの汎神論network topologyは四つの国から成る 【問】この国はstate (国家1) かnation (国家2) か？ 【答】二項対立のいずれの項をも否定して存在する第三の此れはクニと呼ぶ以外にはない国 (クニ) である。 【問】それでは、クニとは何か？ 【答】クニとはOOである。</p> </div>	

結局上図を眺めれば、これは『縄文紀元論』で論じて明らかなる高天原のトポロジーであり、もし私たちがさう考へるのならば、豊といふ前綴・prefixを名詞の前に付けば、これらの官庁は皆自動的に、黙つてゐても高天原の第二層に相を移転する。格上げになる。まさか、安部公房は自分のトポロジーといふ数学に対する偏愛が（本当は偏つてはゐないが）、ここまで拡張されるとは思つてゐなかつたであらう。

i: 5。教師の給料を大幅アップ

次の通りとする。

- (1) この対談の理解ができた教師の給料は今の2倍とします。
- (2) この対談に触発されて安部公房といふ作家の全集30巻を読みたいと思ひ、実際に一度読み通した教師の給料は今の10倍にします。
- (3) この対談に触発されて安部公房といふ作家の全集30巻を読みたいと思ひ、実際に二度読み通した教師の給料は今の20倍にします。
- (4) この対談に触発されて安部公房といふ作家の全集30巻を読みたいと思ひ、実際に二度読み通した教師の給料は今の30倍にします。

国語の教師も化学の教師も物理の教師も古典の教師も誰も彼もが学校で、公教育として、安部公房の文学を語り広めることができたなら、世界中にゐる安部公房の読者のやうに、優秀で、こころ優しく、同調圧力など屁の河童といふ問題提起型・仮説設定型の個人が大勢生まれるであらうから、政治の質も圧倒的に向上し、全国津々浦々の役人の仕事の質も向上し、いいことづくめである。トポロジー国家に変形して、外の塀や壁のセメントにヒビの入つた今の日本の国家を土台から掘り起こして、建屋も壊し、古代国家のまま近代国家をつくらうとして愚かなる廃仏毀釈までをして伝統を破壊した碌でもない明治政府の負の遺産を一掃して、マイナスをプラスに転じて新しい国家を建築するのである。

j: まとめ

ここまで来ると、一行でまとめることをしようとするれば、次のやうになります。

安部公房の構想した国体変形論を実現せよ

といふことに尽きます。即ち、

日本人が自分自身の姿を想ひ出すことです。

ここでも、またしても、私の主張は、古事記を読めと云ふことになりました。



そして、もはや学校教育を根本的に疑ふところまで来てしまった。

さすが安部公房、首尾一貫してみて、国家国体変形論は今も生きてゐる。しかし、解答型の教師に哲学は教へられない。とすると、やはり文科省の解体と役人教育から始めなければ、全国の学校教育は変はらないと云ふことになります。

要するに、学校教育に自分の人生を頼る奴はダメだといふことです。江戸時代の中江藤樹みたいに自学自習で行くことです。明治維新以前に戻りませう。



縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く（23）

5.16.4 八の音義は何を意味するか（承前5）

目次

I 縄文紀元日本語論

1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてみるのが

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かごめかごめの歌は一体何を歌っているのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまところどこで何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元の分類

5.13.2 淤能碁呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か

5.16 大祓へを読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか

5.16.4 八の音義は何を意味するか

Intermezzo 3 伊勢神宮とは何か

Intermezzo 3-1 伊勢神宮をやまと言葉で読む

5.16.4-1 八の音義は何を意味するか2



青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

5.16.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか

5.19 ダイグラボッチと巨人伝説：大倭日高見国と播磨国：房総半島と瀬戸内海の交流の歴史

5.20 日本人はどこから来たか

5.16.4-1 八の音義は何を意味するか（承前5）

(8) 八岐大蛇

八岐大蛇といふ怪物の説明をするために、この怪物が出現する地形を構成する山々や、その山にある鉱物の採掘との関係で、これが本物の大きな蛇では実際にはなく、この土地の地勢の山谷によるものだといふ説明のあることをよく承知した上でものを問へば、それでは何故その蛇が其の土地の地勢と特質であるとして、処女（をとめ）を毎年やつて来て食べねばならないのかの説明にはなつてゐないといふ指摘をせざるを得ない。

未だに、この説明では、地勢・地形が人間の生きた生娘を、翁と媪に要求することの説明になつてゐない。何故なら、土地の物理的な地形・地勢は、この隠喩（メタファ）としてあるとされてさういはれる大蛇の食欲を説明できないからです。無機物の山谷に命が宿つて有機物の人間を喰らうのは如何なる次第か。二つの事柄の間には距離があり過ぎる。それでは、順序を入れ替へて、やはり古事記の原文にある通りに、この大蛇の上に山谷があると理解をし、山谷の上に大蛇が隠喩としてあるのではないと理解をして話を進める方が理に適つてゐるのではないでせうか。原文では八岐大蛇の姿の説明は次のやうになつてゐる。

「彼（か）の目は赤かがち如（な）して、身一つに八頭八尾（やかしらやを）有り。亦、其の身に蘿（ひかげ）・檜・楡（すぎ）までも生（お）ひ、其の長（たけ）、谿（たに）谷峽（を）八尾に度（わた）りて、其の腹を見てしか、悉（ことごと）に常に血あえ爛（ただ）れてありき」〔此の赤カガチと謂ふは、今の酸漿（ほほづき）ぞ。〕

この大蛇の描写に対して、名前である八岐大蛇といふ名前の意味の解析から、大蛇の意味を吟味したい。そして、最後に両者を突合して、一体どうなるかをみることにします。

八岐大蛇といふ名前の構成要素から見て、

(1) 八《や》と呼ばれるに値するマタ 及び

(2) 大蛇と漢意で表記書かれてはゐるが、やまところではオロチと

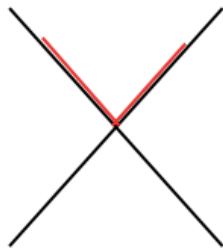
さう呼ばれてゐる蛇の関係を考へることになります。

八《ヤ》・マタとは、これまでの考察から、再掲すれば、次の角度と線を持つ形象を意味してゐる。

2021/02/16
eiya iwata

《ヤ》の形象

大祓の文字を読むと二つの線の交差する一つ内側の赤い線で示した角度と形象が実際の豊漁の漁場のヤであり、それが祝意によつて立ち上がる自然の形而上学の世界の《ヤ》であり、二つながらあはせてのヤである。



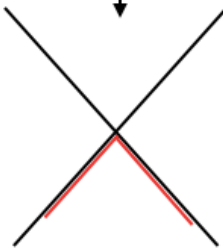
(例)

- 八百路
- 八潮道
- 八岐大蛇
- 八塩折之酒
- 八咫鳥

八百屋 (考へてみれば、八百屋さんといふのもありと凡ゆる野菜が一箇所に集まる交差点である。魚屋を八百屋と云はめのは、やはり海の民の語を地(つち)の民の語彙に転じたからであらうか。) 八百万の神々 (確かに出雲に八百万の神々が集まるのは、八百屋さんと同じ八百だからで、かくヤ(八)の音義で発声すれば、それは最初から集まること、交差することを意味してゐたのです)



私たち日本人の世界はトポロジーの世界であるので、天地は等価交換されていづれが天でもいづれが地でも同じ値を持つてゐる世界ですから、このヤの音義によつて表される形象は上下・天地いづれに開いてゐてもよい。要するに、私たち日本人の宇宙観は天地(あめつち)の間に全てが収まつてゐるのです。実に単純で簡単で力強い宇宙観です。



上図形のうち、マタといふ言葉の意味は、下方・下部の図形を意味する形象であることは、以下の用例から明らかです。どちらが上どちらが下とするかによつて股・マタの方向が決まる。さうして、幹であるか胴体であるか垂直に立つものの方下にあつて八の形象をしてゐる、それは、ものである。とすれば、胴の垂直に対して下方のマタである。岩波書店の『逆引き辞典』で逆引きすると、私の思ひついた「股裂きの股」といふどうしやうもない思ひつき以外には次のやうなマタがありました。巷などといふのも思へば、確かにチ・マタであつて、このチが命のチならば其れもよし、千のマタといふならば、鶴は千年(国津国の世界) 亀は萬年(天津国の世界)といふ太古の日本人の分類であり今も変はらぬ私たちの分類でありましたから、瓊瓊杵尊が「天八重雲を千別きに千別きて/天降り依さし奉りき」の千別きの千であつて、この意味でも国津国の世界のマタなのかも知れず、それならば紅灯の巷といふ此の巷は青い灯赤い灯が歓楽街の軒端に灯つて確

かに俗なると云つてよければ俗なる人々の、従ひ国津神の、世界であります。

木の股

両脚の股

股裂きの股

内股

刺す股

巷・岐（ちまた）

三叉（みつまた）

四叉（よつまた）

蟹股（がにまた）

猿股

詞の八衢（やちまた）

最後の『詞の八衢』は、本居宣長の長子である春庭の著作の名前ですが、これは喩へていへば、語幹といふ言葉一語の垂直に立つ幹に対するに枝葉の変化・活用またはその幹に接続する助辞の文法書ですから、やはり『詞の八衢』と名付けたものでありませう〔註1〕。

〔註2〕

「世界大百科事典 第2版「詞八衢」の解説

ことばのやちまた【詞八衢】

本居春庭（もとおりはるにわ）による古語の研究書。1806年(文化3)成立。動詞の活用の種類を簡明に総括し活用を体系づけた国語学史上画期的な書である。活用の型に四段，下二段，中二段(上二段)，一段(上一段)の4種とカ変，サ変，ナ変をたて，名称は見られないが，命令形を除く五つの活用形を設けて，所属する語を可能なかぎり掲げ，接続する辞を厳選して付している。この体系は，近代の文法学説にも受け継がれている。春庭はさらに，この書の学習法をふくむ語法論《詞通路（ことばのかよいじ）》を28年(文政11)に完成させた。

出典 株式会社平凡社世界大百科事典 第2版について 情報」

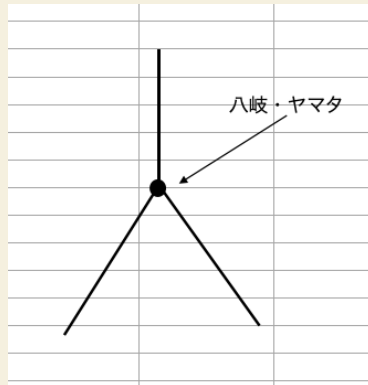
(<https://kotobank.jp/word/詞八衢-65569>)

さて、さうであれば、

問：八岐大蛇とは何か？

答：垂直方向に立つ幹から下方に分岐した八の形をした股を有する大蛇である。といふことになります。あるひは、其のやうな分岐をした場所に出現する、《ヤ》ですから其の交差点または分岐点を寿ぐ大蛇といふ意味になります。この場合は後者ととります。何故ならば、前者の形をした蛇は想像できないからです。とすると、八岐・ヤマタといふ形象は次のやうな形象に、いづれにせよ、な

ります。何だか、五寸釘を打つて呪ひをかける藁人形みたいだ。といふことは、呪ひと祝賀とは裏表といふことなのでせう。



八岐大蛇の登場する段を読むと、次の八《ヤ》が出てくる。これは、豊葦原瑞穂の国といふ時の豊-と同じ、英文法用語を借りて私が便宜的にいふprefix・前綴と解するのが良いと私は思ふ。

- ①「我が女（むすめ）は、本より八稚女（やをとめ）在りしを」
- ②「古志の八股のをろち年ごとに来て」
- ③「身一つは八頭（やがしら）八尾有り。」
- ④「其の長（たけ）、谿（たに）八谷八尾に度（わた）りて」

もし八股のオロチの股が8つあるといふ算数の理解で行くと、頭は8ではなく9になり、尾の数も8ではなく9になるでせう。しかし、さうなつてゐないので、文字通りにこれは「身一つは八頭（やがしら）八尾有り。」と書いてあるならば、この八は交差点に立つことの祝禱の《ヤ》であると理解した方が良いのではないだろうか。従ひ、

③「身一つは八頭（やがしら）八尾有り。」とは、身は一つであつて、八頭あり八尾あり、愛でたき頭あり、愛でたき尻尾ありといふことではないのだろうか。どんな風に愛でたいかは、この存在の交差点にゐるといふことがそのまま愛でたいことだからです。

④「其の長（たけ）、谿（たに）八谷八尾に度（わた）りて」といふ文の意味も、大蛇の長さが長いといふことがいひたいのであるし、その長さもまた愛でたくもあつて、愛でたき谷凹、愛でたき凸にわたつてゐるといふのです。凹も愛でたい形象、富の生まれる豊饒の形象であり（世界は差異である）、さうであれば正反対の裏表の凸もまた同様である（世界は差異である）。さうであれば、

①「我が女（むすめ）は、本より八稚女（やをとめ）在りしを」とあつて老夫婦の国津神が娘を失ふことを確かに嘆いてゐても、八稚女（やをとめ）在つたものをといふからには、八といふお祝ひを完成することになる此の最後の人身御供になる筈の櫛名田比売（くしなだひめ）もまた、変な言ひ方に聞こえるでせうが、愛でたきをとめなのであつて、素戔鳴尊を前にしてゐるからさうなのか、いづれにせよ、八岐の大蛇に対しては八稚女（やをとめ）の最後の完成となる処女（をとめ）といふ位置に此の娘はゐるのです。そして、その人身御供の代わりに何かよきものが齎されるのではないのであらうか、この八番目の八《ヤ》の娘の命を引き換へにして。さうすると、ここから解釈は二つあつて、一つは、

②「古志の八股のをろち年ごとに来て」とありますから、今の越前・福井県の地域の古代国家である古志の国からわざわざやつて来るとは、娘の命を引き換へに、古志の国からの何かよきものがやつて来るといふことが一つの解釈。もう一つの解釈は、素戔鳴尊が此の大蛇を八股の折れ曲がつた交差点の祝ひの、祝ひのといふならばきつと出雲と古志の交易の場所に違ひなく、ここで退治した大蛇、即ち八岐大蛇の尻尾一本から草薙の大刀が出現したといふことも、このやうな理解の順序であれば、納得が行くと私には思はれるが、如何か。草薙の大刀は古志の国製であるかも知れない。

その後に言はれる「八鹽折りの酒」も「垣をめぐらし、その垣に八つの門（かど）を作り、門ごとに八つのさずきを結び、其のさずき毎に酒船を置いて、船ごとに其の八鹽折りの酒を盛り待て」といふ素戔鳴尊の指示もまた、数としての八は実際の数として配置をしても、その心は上記の通りであつて、八《ヤ》の音の愛でたきの列挙であつて、恰も最初からもう既に素戔鳴尊が八岐の大蛇を退治することが愛でたい結末を迎へることをあらかじめ知つて予祝してゐることであるかの如くに見える。予祝は超越論の論理です。いふまでもなく、その愛でたき結末は、「中つ尾」から（註釈によれば「中心部位にある尾」）出現する草薙の大刀を、素戔鳴尊が手にするといふ結末です。「中つ尾」といふからには、やはり尻尾は一本、「身一つ」とあれば此れも蛇の長い胴は一つです。八は数字なのではなく、八の形象なのです。これが私たち日本民族の美意識の在り方なのです。この八《ヤ》の極め付きに、今の世にもある扇の形象を挙げることもできるでせう。留めて一つになつてゐますから、これは存在の八《ヤ》です。存在の扇です。

陽の八《ヤ》



陰の八岐の八《ヤ》



以上長々と述べましたが、一番判りやすい説明は、伊勢神宮内宮の鳥居や本殿を囲む塀に規則的に繰り返して打ち付けられてゐる或る植物の枝による形象が鹿の角の開き方と同じVの形であるのに対して、この《ヤ》マタといふ形象は逆さのΛであることに、その交差点の価値の片葉はV（仮に陽気の陽の文字で表すと陽）、片葉は逆V即ちΛ（陰）の違ひがあるのかも知れません。

その他の八を前綴に持つ名詞に、八重垣、八重桜がありますが、これはこのままにうち置いて先へ進みます。ほかにもたくさんあることとせう。

5.16.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか

「5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある」については、「(3) 第三段：大倭日高見国は大祓への結果どうなつたか」として既に論じたので、ここでは、「誰がしろし召し」誰が「聞こし召す」のか」といふ問に答へたい。

「聞こし召す」前に「しろし召す」があるのですから、即ち、大祓の第一段を読めば、

(1) 「しろし召す」主語は、「我（あ）が皇孫命（すめみまのみこと）ですから、「豊葦原瑞穂の国を」「所知食（しろしめせ）と」天照大御神よつて「事依し奉（まつ）」ると委託されて派遣されて天降る瓊瓊杵尊が「しろし召す」ことになります。天照大御神の其の「しろし召せ」といふ「事依し奉（まつ）」りし心は「安国と平けく」といふことにあります。これに対して、

(2) 「聞こし召す」の主語は、やはり瓊瓊杵尊であり、「天の磐座放ち/天の八重雲を伊頭の千別（ちわき）に千別（いわき）て」山を降りて、「天降り依し奉き」となる。この瓊瓊杵尊が「天降り依し奉き」て、即ちこのやうに「如此依（かくよさ）し奉し四方の国中」即ち国の中心とするのは大倭日高見国であつて、この国を「安国と定め奉」る心は上記（1）の天照大御神の心と同じです。さて、かくして高天原の話から天降つて国津神の世界の話になると、やはり「所知食（しろしめ）」すのは、瓊瓊杵尊であります。

さうして、ここまでが第一段であつて、第二段の天津罪と国津罪の列举したあとの第三段で、再び「所知食（しろしめ）」すが出てくるので、この「所知食（しろしめ）」すの大祓の中での登場する順序は次のやうになつてゐることが全体として見れば判ります。

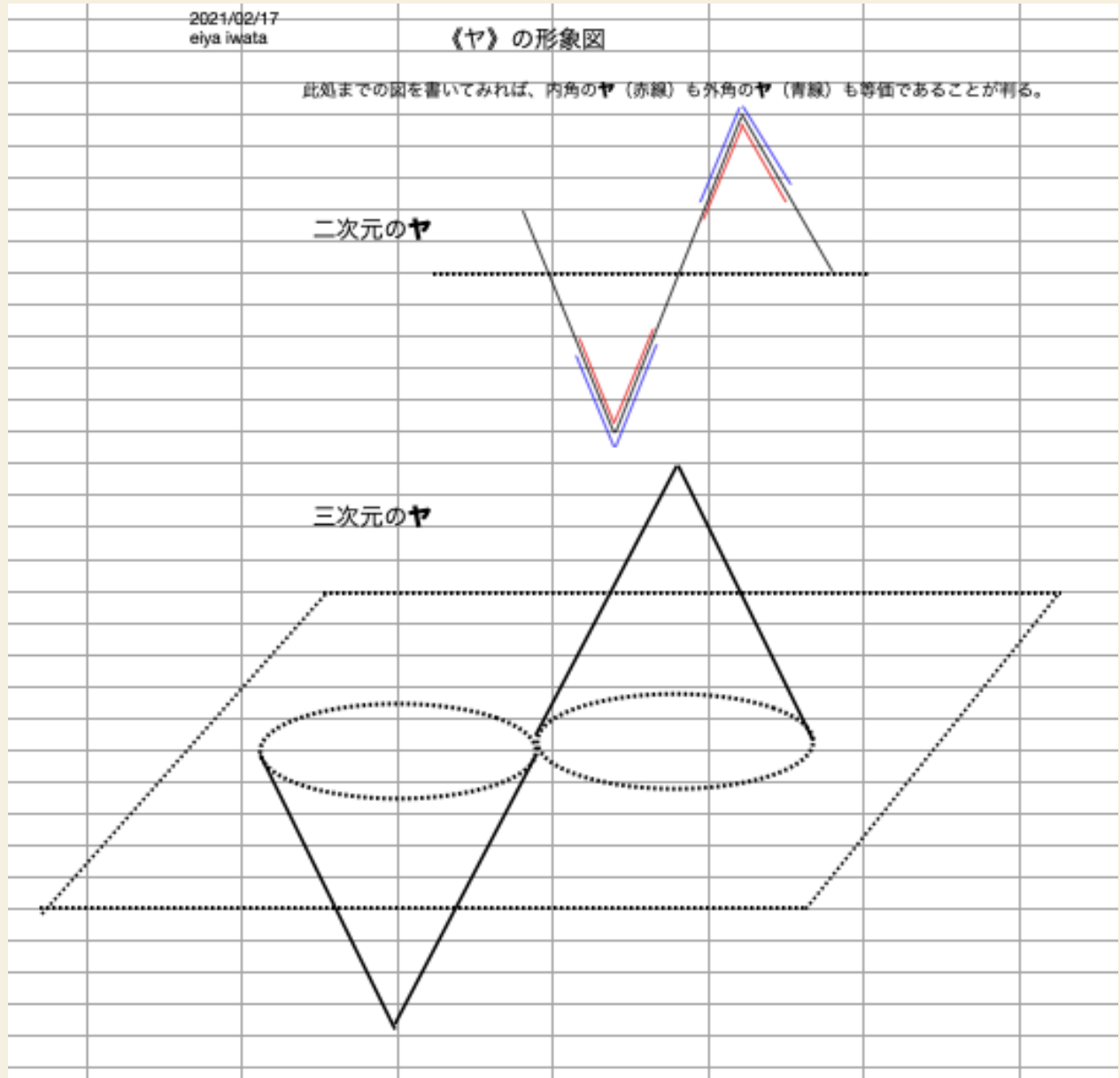
- (1) 高天原から瓊瓊杵尊が天孫降臨して「所知食（しろしめ）」す。
- (2) 大倭日高見国といふ東北諸国の中心の国、即ち安国で、瓊瓊杵尊が「所知食（しろしめ）」す。
- (3) 大祓の第二段で天津罪と国津罪を列挙して、然るべき大祓の神事を執り行つたあとに「天津祝詞の太祝詞事を宣（の）」りした後に、続く第三段で、天津神と国津神がそれぞれ伊豆の山とそれ以外の高山短山（ひきやま）を上り降りするお祓ひのあとで「如此所聞食（かくきこしめ）」すのは、これらの天津神と国津神です。さうして、
- (4) 第三段の比賣たち三柱の神々による日本列島の大祓のあとで「所食（きこしめ）」すのも、天津神と国津神、そして第三段でこれら比賣たちとともに大祓をした祓戸（はらひど）の神等（たち）が主語となつてゐて、これらの神々が「所食（きこしめ）」すのです。
- (5) この（4）から判ることは、大祓をした後は、天津神と国津神といふ垂直方向の階層関係が水平になつて、同じ平面（日本列島といつてもよい）の上で同格に並ぶといふことです。これも、私たち日本人の、まあ、十八番ですから、これも相当に大昔の昔から此の等価交換原理は働いてゐて、このやうに仔細にみればなるほど大祓の世界はまさしく私たちの世界だと自づと思はれます。私は此れをスーパー・フラットと日頃呼んでゐます。

以上を一覧表にすると、大祓の祝詞の式の運行は次の通りとなります。

2021/09/30 eiya iwata		大祓の次第の順序						
	場所1	→	場所2	第一段	→	第二段	→	第三段
				天孫降臨の段		罪災ひの段		大祓の段
天降るのは	高天原	から	豊葦原瑞穂の国	瓊瓊杵尊		天津神と国津神		—
しろし召すのは	豊葦原瑞穂の国 (高天原の第二層)	から	大倭日高見国	瓊瓊杵尊		瓊瓊杵尊		—
大祓するのは						[天津罪と国津罪の列挙]		瀬織津比賣、速開都比賣、気吹戸主の神、速佐須良比賣
聞こし召すのは1								[冒頭] 天津神と国津神
聞こし召すのは2								[結末] 天津神と国津神と祓戸の神等（たち）

この表のダウンロードは：<https://docdro.id/K2qhcQd>
 大祓のダウンロードは：<https://www.docdroid.net/7GVX8B7/document>

もう一度この章の最後に、頭の整理のために、《ヤ》の議論の最初に掲げた図を再掲します。



5.17 紫式部の超越論『源氏物語』

(続く)

編集後記

編集後記

● 巻頭詩（28）：孤独より 其の二：全部で十一章からなる詩篇です。初期安部公房のエッセンスです。これらの詩から後年の傑作が生まれました。小説の種が『無名詩集』には撒かれてゐる。

● 周辺飛行（52）：4。『安部公房スタジオ会員通信』（7）：第7号・第8号：第7号は未入手。後日手に入れたらまた掲載します。

● 『文章読本』論（7）：三島由紀夫：三島由紀夫の論じ方は論理明晰です。分類がよくできてみて、私は『All Japanese are perverse』と云ふ、三島由紀夫の性愛に関する男女の組み合わせの分類を想ひ出しました。このエッセイもまたいづれ論じたい。

● *Male Hole Letter*（66）：超越論 II（第九回）：これも成り行き次第。この先何が出てくるかは私にも解りません。

● サンチョ・パンサを求めて（18）：コンピュータ時代にはどんな人間が強いのか（3）最終回：さすが安部公房、首尾一貫してゐて、国家国体変形論は今も生きてゐる。しかし、解答型の教師に哲学は教へられない。とすると、やはり文科省の解体と役人教育から始めなければ、全国の学校教育は変はらないと云ふことになります。要するに学校教育に自分の人生を頼る奴はダメだといふことです。江戸時代の中江藤樹みたいに自学自習で行くことです。何故なら、専門家は専門の領域内のことしか知らないからです。専門家は威張つてゐます。実は素人に使はれる人のことです。

● 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（23）：5.1 6.4 八の音義は何を意味するか（承前5） / 5.1 6.5 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか：これで八岐大蛇を論じて、一安心。長年の疑問が解けました。次は源氏物語です。本当にあともう少しでおしまひといふ感慨しきりです。私の長年の疑問はすべて氷解しました。馬鹿だアホだキチガイだといはれ、そんなことをやつても世に出て出世ができないぞといはれましたが、初心貫徹、馬鹿の一念岩をも通す、ただただ日本語に感謝申し上げるのみ。あとは専門家諸氏にお任せ致します。そして、私はまた狭義の文学の、文字と言葉の世界へ戻る日や近し。

差出人:

安部公房の広場

〒182-0003東京都調布市若葉町
「閉ざされた無限」

安部公房の広場

連絡先: eiya.iwata@gmail.com



【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集者自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。